

離脱症状

ベンゾジアゼピン系薬の減薬

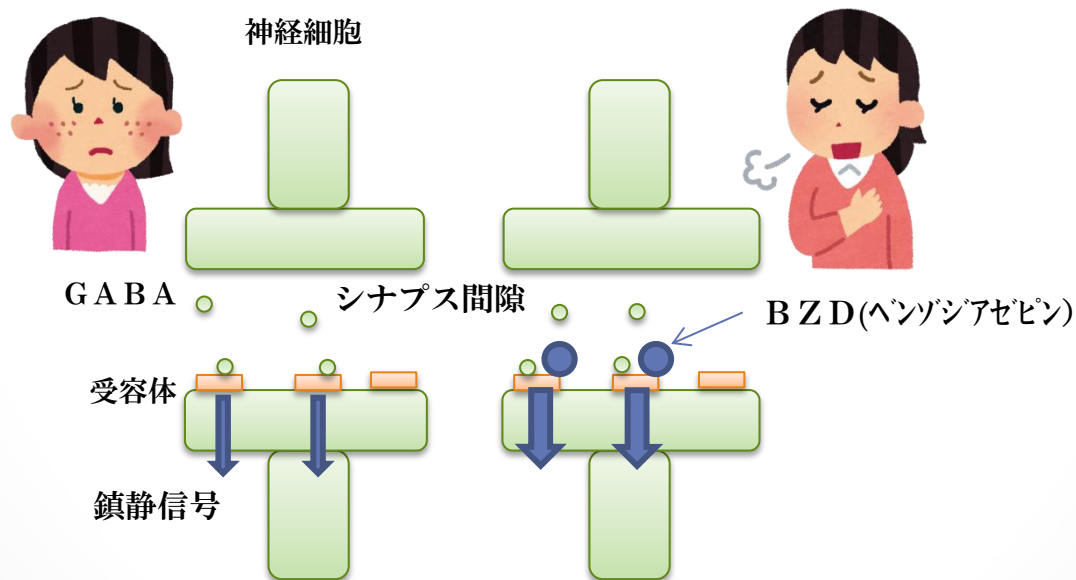
ベンゾジアゼピンの作用機序

全てのベンゾジアゼピンは、内因性の脳内化学物質、GABA（ γ アミノ酪酸）の機能を賦活化させることにより作用します。GABAとは、脳内神経細胞（ニューロン）間の情報伝達を担う神経伝達物質の一つです。GABAが伝達する情報とは抑制作用であり、接触するニューロンに、発火を抑えるか止めるように伝えます。

脳全体に存在する数百万のニューロンのうち約40%がGABAに反応するため、GABAは脳に全般的な鎮静作用をもたらすこととなります。

GABAとはある意味、生体に元々備わっている天然の睡眠剤、安定剤です。このGABAの自然な作用はベンゾジアゼピンによって増強され、ニューロンに付加的な（しばしば過剰な）抑制作用を及ぼすこととなります。

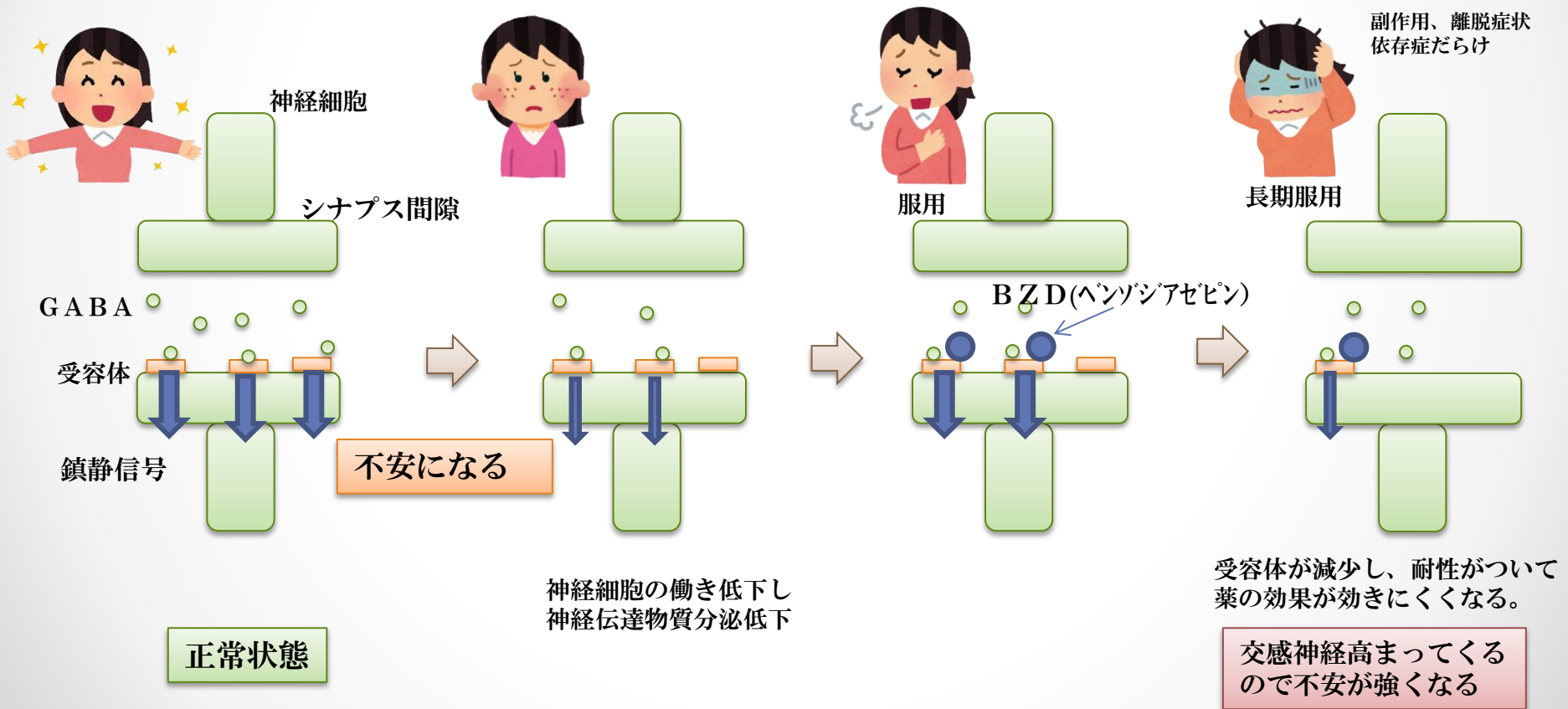
多くのベンゾジアゼピン系の薬は化学的にはベンゾジアゼピンと異なりますが、作用機序は同じで、同様の影響を及ぼします。



BZDが受容体につくことで
鎮静効果高まる(不安軽減)

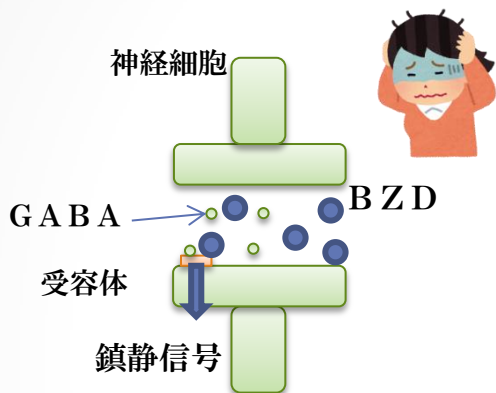
ベンゾジアゼピン薬長期服用の影響

ベンゾジアゼピン服用による長期的（場合によると永続する）影響に関与している可能性のあるメカニズムのひとつは、脳内 GABA 神経細胞におけるベンゾジアゼピン受容体の活動変化です。ベンゾジアゼピン系の服用を長期に行うと、余分なベンゾジアゼピン受容体が必要とされなくなり、多くの受容体が、事実上、廃棄されます。この結果、脳の GABA への感度が全般的に低下し、患者は中枢神経の興奮性が高まり、ストレスに対する感度が増大した状態におかれます。



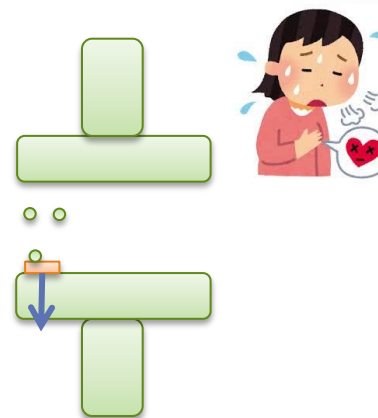
急性離脱した場合

長期服用の状態

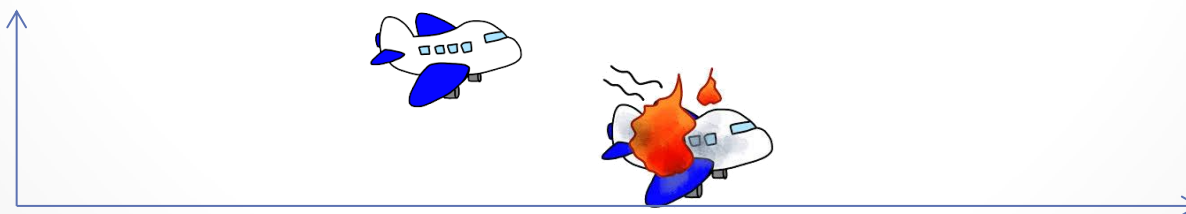


受容体の数が少なくなっている。
交感神経が高まり不安が高い

いきなり
断薬



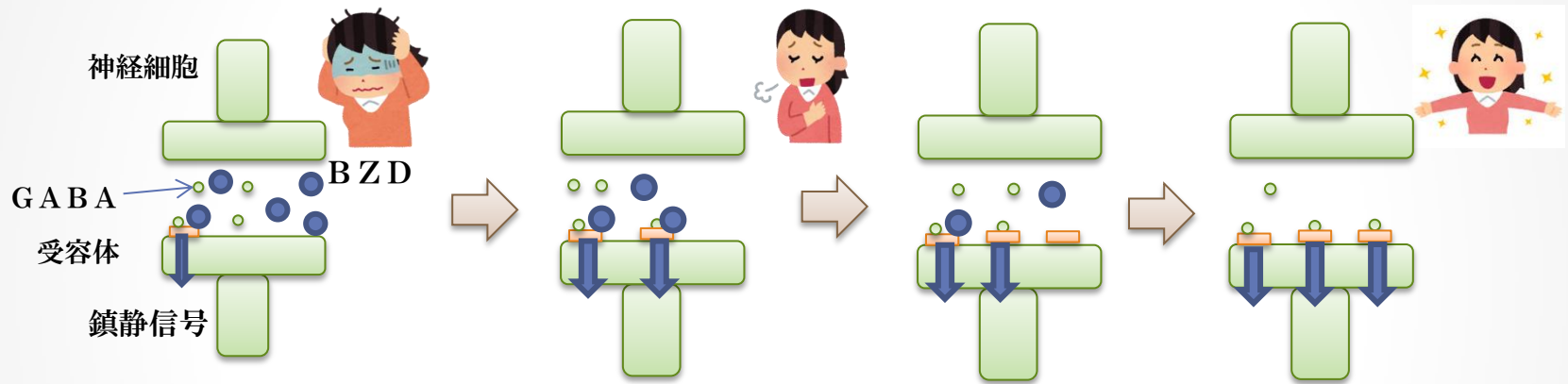
鎮静信号が弱くなっているため、交感神経がさらに高まり、パニック、めまい、動悸などが起こりやすくなる



急な断薬は、飛行機のエンジンを切って急落下するハードランディング

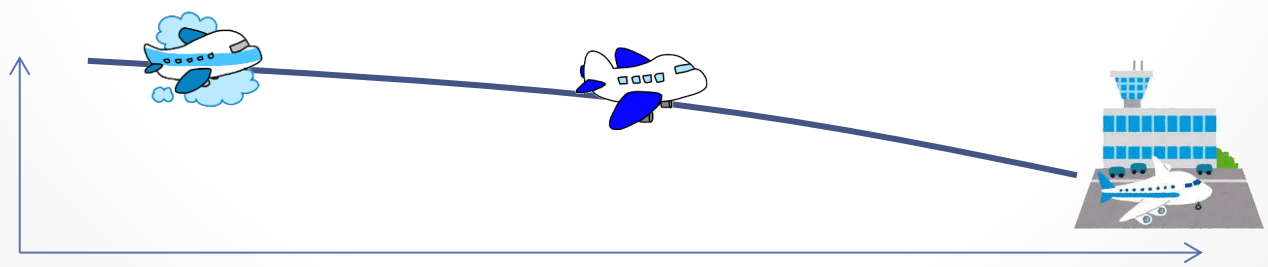
離脱はゆっくり行う理由

向精神薬により損傷した受容体の元での急激な減薬は、激しい離脱症状を生じるため、離脱時は、受容体の回復を待ちながらゆっくりと行うことが大切になってきます。



受容体の数が少なくなっている。
交感神経が高まり不安が高い

ベンゾジアゼピンを減らし、
受容体の成長を待ちながらゆっくり減薬



ゆっくり断薬はソフトランディング